

# ジョージア政治・経済 主な出来事

【2016年3月21日～2016年3月27日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成28年3月30日

在ジョージア大使館

## 1. アブハジア・南オセチア

### ▼第35回ジュネーヴ国際会議(23日)

・第35回ジュネーヴ国際会議で、ジョージアとアブハジア側はガリでのIPRM会合の再開について合意。ガリでのIPRM会合は2014年4月にアブハジア側が当時のEUMM代表を「好ましくない人物」として参加を拒否して以降、停止していた。

・会議後、共同議長、ジョージア外務省、ロシアの主任交渉官であるカラーシン露外務次官、米国代表団、OSCE代表らは合意を歓迎する声明を発表。ジョージア外務省の声明は、「このメカニズムの再開は現地の安全保障にとって重要な前進であり、住民の基本的な権利の保護に大きく寄与する」と述べている。

・共同議長によれば、会議では現地の安全状況が比較的落ち着いており、安定していると評価された。また、移動の自由、行方不明者、教育、文化財、環境問題など人道的状況について議論された。

・24日、露外務省は第35回会議に関する声明を発表。声明は、「アブハジア、ロシア、南オセチアの参加者はジョージアとNATOの防衛協力の活発化について懸念を表明した」と述べている。

・次回のジュネーヴ国際会議は6月14日、15日の予定。

### 【南オセチア】

#### ▼「在伊南オセチア共和国代表部」(15日)

・露メディアが在イタリア「南オセチア共和国」代表部がローマに開設されたと報道。

・ザカレイシヴィリ和解・市民平等担当国務大臣は、「代表部」について、個人が開いたものであり、いかなる法的・政治的根拠もないとコメント。

## 2. 外 政

### ▼通商担当欧州委員がジョージアを訪問(21日)

・マルムストレーム欧州委員(通商担当)が、ジョージア・EU間のDCFTAの実施について議論するためジョージアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領、クヴィリカシヴィリ首相、ジャネリゼ外相、クムシシヴィリ経済・持続的発展相らと会談。

・「ジャ」外相との会談では、DCFTAがジョージア・EU間の貿易、特にEU市場へのジョージアからの輸出の増加を促進したことが歓迎された。

### ▼国会議長のサウジアラビア訪問(21日～22日)

・ウスパシヴィリ国会議長とジャパリゼ国会外務委員会委員長がサウジアラビアを訪問。サウジアラビア国王、

皇太子、諮問評議会議長、湾岸協力機構事務局長と会談した。

・会談でサルマーン・ビン・アブドゥルアジーズ・サウジアラビア国王は、経済、ビジネス、観光分野での両国の協力の重要性を強調し、サウジアラビア国内で活動するビジネスマンたちにジョージアに関心を持つよう呼びかけると述べた。また、サウジアラビアがジョージアの主権・領土一体性を支持し、ジョージアの国内避難民に関する国連決議に対する支持を継続すると述べた。

### ▼内相のベラルーシ・ドイツ訪問(22日～23日)

・ムゲブリシヴィリ内相がベラルーシを訪問。シュネヴィチ・ベラルーシ内相と会談し、二国間協力、組織犯罪対策などについて議論。未成年者の更生に関する両国内務省の協力についての覚書に署名した。

### ▼米欧州軍司令官のジョージア訪問(22日～23日)

・ブリードラヴ米欧州軍司令官・NATO欧州軍最高司令官がジョージアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領と会談。「マ」大統領は「ブ」司令官の「ジョージアのNATO加盟および米・ジョージア国防関係に対する重要な貢献」を讃え、「金の毛皮」勲章を授章した。

・23日、ヒダシェリ国防相と会談。会談後の共同記者会見で「ブ」司令官は、5月に行なわれる予定のジョージア・米・英の共同軍事訓練「Noble Partner 2016」は、3週間のプログラムとなり、昨年よりも大きな規模になると発言。

### ▼首相のベラルーシ訪問(22日～23日)

・クヴィリカシヴィリ首相はクムシシヴィリ経済・持続的発展相およびダネリア農業相とともにベラルーシを訪問。ベラルーシのルカシェンコ大統領、ミヤスニコヴィチ上院議長、アンドレイチェンコ下院議長、コビャコフ首相と会談した。また、ミンスク・トラクター工場を視察し、ベラルーシ・ジョージア経済フォーラムに出席。

・「ル」ベラルーシ大統領との会談では貿易、物流、通信、情報技術の分野における二国間協力が強調された。また、観光分野の成長の傾向が指摘された。経済分野での協力について、「ル」ベラルーシ大統領は、「我々の目的は貿易高を2億ドルにすることである」と述べた。

### ▼国会議長のクウェート訪問(23日～25日)

・ウスパシヴィリ国会議長がクウェートを訪問。クウェートの首長、首相、前首相、議会議長らと会談。

・サバーハ・アル＝アハマド・アル＝サバーハ・クウェート首長との会談ではジョージア・クウェート関係の発展やさまざまな分野での協力、EUとの連合協定、査証自由化、DCFTAなどについて議論。「サ」クウェート首長はジョージアおよび地域的情勢、ジョージアの被占領地

域の状況、ジョージア・露関係に関心を示した。「ウ」国会議長は、2008年8月の露・ジョージア戦争後のジョージアに対するクウェートの支援に感謝を述べた。

#### ▼外相のアルメニア訪問(24日ー25日)

・ジャネリゼ外相がアルメニアを訪問。アルメニアのサルグシヤン大統領、アブラハミヤン首相、ナルバンジャン外相と会談した。

・「ナ」アルメニア外相との会談では、貿易・経済、物流、観光、エネルギー、文化の分野での協力などについて議論。「ナ」アルメニア外相は、両国関係は良好であり両国間に問題はないとして、「いくつかの論点は共同の努力により解決されつつある」と述べた。

・「サ」アルメニア大統領は、両国の外交政策方針は異なるが、それは二国間協力にとって障害ではなく機会であると述べた。「ジャ」外相はEUとアルメニアの間で新たな枠組み合意に関する交渉が開始されたことを歓迎

### 3. 内 政

#### ▼サガレジョ地区の国会補欠選挙に関する捜査の打ち切り(21日)

・2015年10月にサガレジョ地区で行なわれた国会補欠選挙でヒダシェリ国防相が不正を行なったとのトバゼ議員(与党連合・「産業がジョージアを救う」党)の告発を受け、捜査を進めていた検察は、「犯罪の証拠は確認できない」として捜査の打ち切りを発表。

### 4. 経 済

#### ▼2016年1月～2月の貿易統計(21日)

・国家統計局が2016年1月～2月の貿易統計を発表。貿易額1,413百万ドル(前年同月比2%減)、輸出額281百万ドル(同13%減)、輸入額1,132百万ドル(同1%増)。

・貿易相手国の内訳はEU諸国38%、CIS諸国25%。国別では貿易額の多い順にアイルランド、トルコ、ロシア、中国、アゼルバイジャン、ドイツ、ウクライナ、アルメニア、イタリア、ブルガリア。

・日本との貿易高は輸出額60.5千ドル、輸入額22,237千ドル。

#### ▼2015年のGDP(21日)

・国家統計局が2015年のGDPを発表。名目GDPは31,691.6百万ラリ(前年比8.7%増)。米ドル換算で13,959.9百万ドル(同15.4%減)。

・国民1人当たりGDPは8,497.5ラリ(前年比30.9%増)。米ドル換算で3,743.1ドル(同1.8%増)。(ただし、2014年の数値は人口を約449万人として計算しているのに対し、2015年の数値は、人口を2014年に行なわれた国勢調査の速報値約373万人として計算している。)

・実質GDP成長率は2.8%。GDPデフレーター5.8%。

#### ▼ジョージア国立銀行が米ドルを購入(21日)

・米ドルに対する最近のラリの増価を受け、国立銀行は外貨市場で1千万米ドルを購入。国立銀行は3月17日にも外貨市場で500万米ドルを購入した。

・3月21日の為替レートは1米ドル=2.2953ラリ。ラリは1月末より米ドルに対し8.1%増価。

・2016年2月末時点の外貨準備高は2,426百万ドル。前月末比21百万ドル減。前年同期比43百万ドル減。

#### ▼法人税改革の延期(23日)

・配当として分配される以外の利益に対する法人税を免除する法人税改革について、政府は2016年7月からの実施を予定していたが、ハドゥリ財相は、ビジネス団体の要請を受けて半年延期し、2017年から実施すると発表。また、当初は銀行、保険会社、小規模金融機関が免税の対象外とされていたが、2019年より適用対象となる。改革案についての国会での審議はまだ始まっていない。

・法人税改革については、在ジョージア米商工会議所およびジョージア・ビジネス協会が、改革案を支持しつつも、年央からの実施は困難であるとして、2017年からの実施を求めている。